

人

池田町立池田中学校 3年 岡田 名津

「みんな同じ人間なんだよ」

人権について考えた時、私の頭に浮かんだのは名前も知らないお兄さんの言葉でした。

中学3年生の6月、家族みんなで買い物へ出かけたある日の事でした。私がレジで並んでいると、片方だけ手のないお兄さんが私のうしろに並びました。私は思わず目をそらしてしまいました。自分の体と違うということが怖かったのです。私が身動きを取れずにいると、お兄さんが優しい声で問いかけてきました。

「どうして目をそらすの？」

私は驚いたけれど、答えなくてはと思い必死で言葉を探しました。

「もし、自分だったらって思うと怖くて…。何か手伝った方がいいのかなと思って。でも何も思い浮かばなくて…」

答えながら、すごく不安になりました。自分がとっても失礼なことをしているのに気がついて、怒るかなと思っていました。すると、お兄さんは思いもよらず、優しく、ニッコリと笑ってくれました。

「助けてくれようとして、ありがとう。とってもうれしいよ。でもね、何もしていらなないんだ。ただ普通にしてくれていいんだよ。僕はね、君と同じ人間なんだよ。みんな同じ人間なんだよ」

私はその言葉に返事をする前に、レジの順番がまわってきてしまいました。お会計を済ませ、その場を立ち去ろうとする私に、お兄さんは微笑みながら手を振ってくれました。みんな同じ人間というお兄さんの言葉が私の頭から離れませんでした。私は今まで、何を勘違いしていたのだろうか。いっぱい、いっぱい考えました。同じ時間を生きている、同じ人間。私が今までしてきた障がいをもった方たちへの接し方が間違っていたことに気がきました。私は心の奥底で、「私とあの人は違う」と勝手に境界線を引き、どこかで下に見て接してきていました。その事がどれだけ相手を傷つけていて、どれだけ失礼だったのかも、のすごく思い知らされました。

私はいつか、こんな言葉を聞いたことがあります。

「壁というものは、乗り越えられる人にしかやっこない」

障がいをもった方々はきっと、たくさん壁を乗り越えて今を生きているのだと思います。私なんかよりもっともっと大きなパワーをもっていることがわかります。私より下なんかじゃない。もっとなんと上の人。私はそんな方々の事

を尊敬しました。壁にあたっても、くじけないで、あきらめないで、笑顔を絶やさない人達。その尊敬の思いを届けたいとも思いました。でも、それもきっと何かが違うんだろうなと思いとどまりました。

「何もしていかないんだ。ただ普通にしてくれていいんだよ」

障がい者の方々は何かをしてもらうことを望んでなんかいないのです。ただ普通に生活をして、本当に困ったことがあった時だけ、そっと手を差し伸べ合うだけでいいのです。

お兄さん。私はお兄さんからたくさんの大切なことを学びました。あんなに失礼なことを言った私に優しく笑いかけてくれたお兄さんは、きっととっても強いんでしょうね。尊敬します。でも、私だって力をもっているんですよ。それはまだどんな力か、はっきりとはわからないけれど、きっといつかその力を最大限に使って人々の役に立てるような大人になります。お兄さんと同じ人間であることを、とってもうれしく思います。ありがとう。

生きている人、一人一人がそれぞれ違う輝くような力を持っているのだと思います。私、障がい者の方々、外国の人々。みんな同じ人間であり、それぞれが壁にぶつかり、それぞれが自分の力でこえてゆく。境界線などは自分が勝手に作っているもので、いつだって取りはらえる。みんな同じ人間だからこそ、手を取り合って今を過ごしていきたいと考えました。いつか境界線の全くない未来がくる日のために自分のもつ力を精一杯、人の役に立てていきたいです。みんな何も変わらない、同じ時間を生きる人間なのだから。